

## 東京都中学校技術・家庭科研究会 の充実・発展のために

会長 平松 功 治  
(中央区立日本橋中学校長)



5月22日に行われました東京都中学校技術・家庭科研究会総会において、ご承認をいただき、本会会長を務めさせていただくことになりました。前任の佐藤秀直会長の業績を引き継ぎ、東京都の技術・家庭科教育の充実と発展のため、精一杯努力してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、研究会には、研究団体、実践団体、育成団体の3つ役割があるといわれています。本研究会の活動をこの3つの役割で整理してみます。

まず研究団体としての役割です。研究部が中心となり、領域ごとの部会に分かれ、それぞれ研究を深め、毎年、関東甲信越大会で提案発表をしています。昨年度の新潟大会では、「エネルギー変換に関する技術」と「家族・家庭と子どもの成長」で発表しました。8月の中間報告会でリハーサルを行い、精度を上げて2学期の大会本番に臨みます。今年度は、10月25・26日で行われる長野大会で、「材料と加工の技術」と「消費生活・環境」で提案発表します。

次に実践団体の役割としては、「ものづくりin TOKYO」や公立学校美術展覧会等の企画・運営があります。これらは生徒実技の実践発表の場で、事業部や総務部が中心になり、毎年精力的に活動しています。競技会等で上位に入賞したチームや作品は、関東ブロック大会や全国創造ものづくり教育フェアに東京都の代表として推薦されます。

最後に育成団体としての役割です。研究部では毎年、夏季休業中に実技研修を実施しています。今年も多く技術・家庭科教員の参加があり、研究部の各領域の研究成果を会員の皆様に、還元できる機会になりました。また、育成ということ言えば、研究部に所属し研究を深めたり、総務部や事業部の運営に携わったりすることが、技術・家庭科教員としてのスキルアップに直接つながっています。これらの本研究会の活動を充実させ、「研究」「実践」「育成」の3つの役割をバランスよく果たしていきたいと思えます。

生徒に身に付けさせたい資質・能力を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の3つに整理した新学習指導要領が、3年後の2021年に全面実施されます。つまり来年度入学する生徒が3年生になった年が全面実施の時です。学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」に3年間を見通した全体的な指導計画の重要性が書かれていることを踏まえると、来年度は本腰を入れ、全面実施に向けての具体的な移行措置の対応を各学校において進める必要があります。

そして2021年には、第60回中学校技術・家庭科研究大会全国大会を東京都で開催します。東京都はこれまで10年に一度のペースで全国大会を開催し、諸先輩の努力ですばらしい研究成果を全国に発信してきました。次回東京大会の成功は、会員一人一人の力にかかっています。会員の皆様におかれましては、技術・家庭科教員として、これからの10年に役立つ資質・能力を身に付けるため、そして何より目の前の子どもたちの生き抜く力を育てるために、第60回東京大会の企画・運営や研究活動に主体的、積極的に関わり、本研究会の発展にご尽力ください。